

麦類の凍霜害に対する技術対策について

平成31年3月29日

埼玉県農林部

1 麦類の生育状況

麦類の生育は2月下旬以降の高温と定期的な降雨によりやや軟弱傾向で推移しています。そのため、3月24日(日)、25日(月)の低温により、一部のほ場で葉の枯れ症状や、小麦の一部で幼穂に凍害が見られています。

(1) 麦類の生育状況(農業技術研究センター内の生育状況)

	茎立期	出穂始	出穂期
彩の星	2 / 22 (-1 0)	3 / 17 (-1 2)	3 / 20 (-1 2)
さとのそら	3 / 13 (+1)	- (4 / 11)	- (4 / 13)

() は平年差及び平年値

(2) 気温の状況(3月24日の最低気温)

観測地	最低気温	観測地	最低気温
熊谷	-0.7℃	越谷	-1.4℃
久喜	-1.8℃	寄居	-4.2℃
秩父	-2.5℃	所沢	-0.7℃
さいたま	-0.9℃	鳩山	-4.2℃

2 技術対策

(1) 幼穂が凍害を受けたものは、無効分けつの有効化や遅発分けつの発生が想定されます。

このため軟弱な生育となり、うどんこ病やアブラムシの発生が懸念されますので、ほ場内で発生を確認したら直ちに防除を行いましょう。

(2) 凍害を受けた幼穂や小穂部分では赤かび病の発生が懸念されることから、赤かび病の防除を徹底しましよう。また、葉が凍死するほどの被害を受けたほ場では、葉上の菌密度を低下させるために直ちに防除を行いましよう。